



## 第11章

# 日韓経済関係のリカップリングに向けて ——日韓経済の歴史と課題

日本経済研究センター特任研究員

李 燦雨

### 【ポイント】

- ▶ 1960－80年代の「冷戦」時代には、米国主導の国際市場経済圏の中で日米韓のトライアングル・カップリングが形成され、日韓の経済関係では韓国が「日本モデル」を圧縮複製しながら自国の経済発展に有利に活用する日本依存型のカップリング関係であった。
- ▶ 1990－2010年代の「冷戦後」の時代は、ソ連の解体と米中関係が友好的な時期であったこともあり、韓国は旧社会主義圏や北朝鮮向けの「北方政策」を推進し、中国経済とのカップリング傾向と日韓経済のデカップリングが進んだ。韓国は「日本モデル」から米国流の「グローバルモデル」の企業経営にシフトした。
- ▶ 2020年前後からの米中対立は国際情勢にポスト「冷戦後」時代を形成しており、日韓はその狭間で「安全保障上のジレンマ」に落ちる恐れがある。変化した国際環境の中で日韓は共に対応することで「共通利益」をもとに新たなリカップリング関係を構築できる。



注目データ

### 時期別の日韓経済関係の特徴

区分	日韓カップリング期 (60－80年代の30年) 「冷戦」時代	日韓デカップリング期 (90－2010年代の30年) 「冷戦後」時代	日韓リカップリング期 (2020年代以降) ポスト「冷戦後」時代
日韓経済関係	韓国：軍部の開発独裁 日本：戦後復興・先進国 ・日韓国交正常化 ・日韓貿易不均衡問題 ・日韓安保経済協力	韓国：先進国跳躍・インフレ 日本：経済不振・デフレ ・韓国通貨危機 日本の支援 ・日韓パートナーシップ宣言 ・対韓輸出規制 vs 「No Japan」	韓国：経済不振 日本：デフレ脱却 ・日韓供給網構築 ・未来志向の経済協力
日韓協力と競合	日韓協力（技術支援、投資） 米国のアブソーパー役割と 日米・米韓貿易摩擦	日韓競合（輸出競合） グローバル経済での協力 （調達、投資、資源開発）	日韓協力（経済安全保障） リスク・コミュニケーション

資料：筆者作成